

# 女川町 支援活動レポート

2011.9.30 ~ 2011.10.2

(宮城県牡鹿郡女川町 各所にて)



頑張ろう日本！      頑張ろう東北！



平成23年10月10日(月)  
東北被災地応援団 白金支部

## 女川町 支援活動レポート

このたびの東日本大震災により亡くなられた方のご冥福を心からお祈り申し上げますとともに、被災された皆様に対し心からお見舞い申し上げます。被災地の一日も早い復興を心からお祈り申し上げます。

### 1. はじめに

今回の女川町支援活動は、女川町で自身も被災され、現在は石巻で避難生活をされているREALeYE 高橋夫妻の仕掛けた「想いよ蘇れ！ミシン大作戦！」に協力をすべく、多くの方々よりミシン・端布・裁縫セットなどご支援いただきました物を、皆様の代わりに仮設住宅へお届けしてきました。

その他、在宅避難者・仮設住宅の区長さんにヒアリングし、リクエストいただきました物資もお届けしてきました。

また、弊会で検討を始めました新企画「桜プロジェクト」につきましても、女川町役場の方に相談しました。

今回の活動を私達の周りに伝えることで、少しでも多くの方に継続的な支援を実施していただける環境作りと、被災地の皆様の笑顔を取り戻すことが出来るよう活動していく所存です。

### 2. 現在の女川町について

震災より7ヶ月、女川町や町民にもだいぶ変化がありました。

浦宿より女川港へ向かう女川街道（国道398号線）沿いは、建物の撤去がさらに進み、コンクリートの基礎のみ残っています。

その周りには伸び放題の雑草が枯れることなく青々と生えています。

[＜女川町の震災前と震災後の映像＞ You Tubeより](#)

<http://www.youtube.com/watch?v=jM9B7UjsJR8>

先日の台風15号の爪痕も多く残り、土砂崩れ、道路の陥落、床上下浸水による被害、山津波による仮設倒壊などもあり、避難所へ47世帯が逆戻りしました。

女川町の仮設住宅は、建設中の物も含めて31箇所（1,285戸、2,695人）になります。

なかには、町内に高台の開けた土地がない為、隣の石巻市に建てられた仮設住宅も3箇所あります。

また全国で初となる2階建、3階建の仮設住宅も、総合運動場内 野球場の敷地に現在建設中で、国の施策より遅れること3ヶ月11月末をメドに移住が完了する予定です。



女川街道より



女川街道、左上が町立病院



野球場に建設中の3階建て仮設



総合運動場内の仮設住宅

### 3. 活動報告

今回現地入りしたのは2名です。車1台に荷物満載での再訪。

訪問したのは、宮城県牡鹿郡女川町の「旧第3小学校仮設住宅 25戸 60名」、「桐ヶ崎地区仮設住宅 23戸 60名」、「女川町災害復興支援センター」、「女川町役場仮設庁舎 農林水産課」、「石浜地区在宅避難者 12世帯 25名」、「第1小学校仮設 57世帯 188名」、「針浜地区仮設住宅 40戸 98名」、「うめまる新聞店」になります。

今回は少数精鋭？での訪問の為、各所で生活状況などを時間をかけてヒアリングしました。

今後の活動内容の参考材料としての質問ではなく、他愛もない日常会話の中から情報をひろうことを意識しました。

以下、活動内容について報告します。

(1) 準備期間、支援物資

A. 準備期間：2011/8/22 ～ 2011/9/29

B. 支援物資

■ミシン大作戦関係

・ ミシン	4 台
・ ロックミシン	2 台
・ 洋裁用端布	大量
・ 裁縫道具	8 箱
・ 裁縫用小物類	4 箱

■食品関係

・ 高齢者用レトルト食品（低カロリー）	20 食分
・ 離乳食（数種）	80 食分

■日用品

・ 洗濯用液体洗剤	200 本	（NSファーファ・ジャパン株式会社さまより ウルトラファーファ）
-----------	-------	----------------------------------

■依頼品

- ・ 赤ちゃん用オムツ（パンツタイプ Lサイズ／BIGサイズ）、高齢者用オムツ（男女用）
- ・ 尿漏れパッド（男女分）
- ・ ゴム長靴、サンダル

(2) 活動レポート

2011年9月30日(金)

前回9月頭の支援活動は、台風12号の上陸により、前日や当日は天候の様子を見ながらの活動でしたが、今回はそんな心配もなく行程中ずっと晴天に見舞われた。

今回も車には多くの方より支援いただいた物資を積んで満載状態。

現地入りメンバーは今回2名。予定の21:30には白金を出発。

運転手が2名の為、今回は運転をこまめに交代。道中の渋滞もなく宮城県に入ってすぐの「菅生PA」に到着。

当初よりここを翌朝までの仮眠場所にしてしている理由は、翌朝給油ができるPAであること。

1つ手前の「国見SA」に比べて放射線量がだいぶ少ないという話を聞いたためである。

実はここを仮眠場所にしてしているボランティア団体は多い。

2011年10月1日(土)

今回はスケジュールの関係で少し遅い、6:30に「菅生PA」を出発し、東北道を北上。気温は東京に比べるとだいぶ低く、朝はかなり寒い。仙台南ICより、仙台南部道路～仙台東部道路～三陸自動車道を順調に走り、「石巻港IC」を降りる。

ナビの案内のまま走ると、石巻市内に信号が復旧してる箇所がいくつもあり嬉しくなった。

しかし国道沿いの家屋は未だ被災したまま残っており、瓦礫の積まれたままの空き地も多く、ここで生活していた方々を思うと、まだまだ復旧や復興までは遠いことを最認識させられた。

女川町へ入る手前、女川街道（国道398号）沿い折立のコンビニで朝食を買い休憩。

驚くことに7月、8月と大量に飛び回っていた、震災バエがいなくなっていた。

コンビニから国道を挟んだ先にある万石浦の水面は今日も穏やかで、カモメの鳴き声が聞こえ、対岸に見える朝日に照らされた唐松山を見ていると、とても震災があったとは思えない、のどかな景色だ。

食事を終え、女川町へと出発。ここから順調に進むと5分程度で女川町へ入る。



万石浦の風景



復興支援センター朝の様子

#### ◆ 女川町災害復興支援センター（女川町社会福祉協議会） ※旧名称：女川町災害ボランティアセンター

まずはお礼を兼ねて受け入れ先である「女川町災害復興支援センター」へ挨拶に行く。

こちらで毎回発行いただく「災害活動受入書」がないと、高速道路の利用料金が無料化となる「災害派遣等従事車両証明書」が発行されない。この制度は9月10日までの期限であったが、現在12月10日まで延長された。

被災地へ支援活動に行くボランティアにとっては、とても負担の軽減になる制度であり、打ち切られてしまうとGW連休後に激減しているボランティア団体が、さらに足が遠のくのではないかと心配している。

復興支援センターは、総合運動場の敷地内にあり、目の前には垣根を挟み「町民多目的運動場 仮設住宅 154戸 415名」が並ぶ。窓口の須田さん、渡辺さんに挨拶をし、各仮設住宅の入居状況や新設される仮設住宅の話や、炊き出しや物資・食料配布の状況など大事な情報をいただきました。

先日、女川町社会福祉協議会 阿部会長より届いたご挨拶状のお礼を、東北被災地応援団 白金支部を代表して伝えました。

#### ◆ 石巻市垂水町 イオンスーパーセンター 石巻東店

ここは女川街道沿いの大きなスーパーで、万石浦駅の近くにあります。

女川町から1番近い大型スーパーで、女川町の中心地より車で20分ほど。

ここで今回の主目的である「想いよ蘇れ！ミシン大作戦！」の仕掛け人REALeYEの高橋さんと待ち合わせ。

#### REALeYE（リアルアイ）さんについて

高橋夫妻は女川町で被災し、現在石巻の旦那さんの実家で避難生活を続けながら、夫婦で女川町の配給のない在宅被災者さんや仮設住宅居住者に、物資を届ける支援活動をしています。

地元に住む者だからこそ、被災者だからこそ、その特性を活かし、女川町のために動かれています。

REALeYEさんには7月の活動でお世話になりました。それ以降は複数箇所でも活動する際も、一箇所は同じ仮設に入り合同で行っています。

10時にスーパーイオン石巻東店にて高橋奥さま（一枝さん）と待ち合わせ。待ち合わせ時間より幾分早く到着したので、前回の訪問時に石浜地区で在宅避難されてる白幡さんよりリクエストありました「格好良いゴム長靴」と「格好良いサンダル」を購入。時間通り高橋さんと合流し、しばし再会を喜ぶ。

予定していた新しい蟹田地区仮設住宅では、コミュニティ形成を急ぐ区長さんと住民との間に衝突が起こった為、今回訪問は見合わせ、暫くは様子を見ることに。。。蟹田地区の皆さんにお会いできなくて残念。代わりに旧第3小学校仮設住宅へ、ミシン大作戦の物資を届けることに。

#### ◆ 旧第3小学校グランド仮設住宅（25戸 60名）

こちらの旧小学校は避難所と仮設住宅が併設しています。

現在も5名ほどが避難所にて生活をし、60名が仮設住宅で生活しております。

女川港を右手に見て、ブルーライン（国道398号）を宮ヶ崎、石浜、桐ヶ崎、月浜と過ぎ左手の山の中腹にあります。

道中、地震や土砂崩れによる片側通行の箇所や、道路が陥落してる箇所が多く、慎重に車を走らせないと崖に落ちる危険あり。

こちらの仮設住宅 集会場に、ミシン2台と端布、洋裁道具を届けてきました。

多種ある素敵な端布を見て、とても喜んでくれました。

しかし洋裁に慣れてる方がいないため、教えてくれる先生が来てくれると嬉しいとのお話がありました。

また各仮設住宅へ洗濯用液体洗剤も届けました。

子供は少なく、60代以上の方が多く、休日のせいかあまり居住者を見かけなかった。

お母さん方との会話のなかで、隣の石巻市に比べ、「水道代が安い」「子供の医療費が無料」など女川町の住みやすさについてもお話を聞くことができました。

台風15号が上陸した際には、旧第3小学校前の道路は川の流れのようになり、車での走行もできなく孤立した状態だったことも話してくれました。



国道398号 ブルーライン



今回も支援物資満載



旧第3小学校避難所



旧第3小学校にて

#### ◆ 桐ヶ崎地区仮設住宅

旧第3小学校から女川港へ戻る途中、桐ヶ崎地区仮設住宅に立ち寄りしました。  
前回、様子見で来た際も、誰も外には出ていなく寂しい印象を持った仮設住宅でした。  
今回は呼びかけに応じ居住者の鈴木さんが出てきてくれました。  
こちらの区長さんは日中仕事に出かけてるため、集会場が開けてもらえず住民同士のコミュニティがほとんど形成されてないようでした。  
こちらにもミン、ロックミン、端布、洋裁道具のほかに、高齢者用レトルト、洗濯用液体洗剤を渡してきました。  
集会場が開いてないので、扉の前に物資をまとめて置き、区長さんが戻られてから室内に運びこむことになりました。  
洗剤をお渡しした際、鈴木さんより柔軟剤のリクエストがありました。  
炊き出しや物資支援もREALeYEさん以外は入らない為か、誰かが来ると様子見に出てくるといったこともありませんでした。



台風15号による爪痕



桐ヶ崎仮設住宅の鈴木さん



ボリューム満点 金華楼の大盛チャーハン

#### ◆ 金華楼にて昼食

震災前までは女川港沿いのマリンパル近くにあった女川町民の誰もが知ってる名店。  
9月1日より旭ヶ丘にて営業を再開しました。  
高橋さん交えて3人での昼食。  
こちらのお店はどれも量が多く、参加メンバーの小澤が大盛を頼むと、すかさずおばちゃんから「うちのは普通でも量が多いよ」との優しいお言葉。  
それでも大盛を注文し、完食した小澤にビックリ。本人曰く出された物は残してはいけないからと。しかし次回大盛は頼まないそうです。  
高橋さんとは昼食後に一旦別れ別行動。この日の夜、石巻の避難先（旦那さんご実家）に2人泊めていただきました。

#### ◆ 女川町運動公園 総合体育館

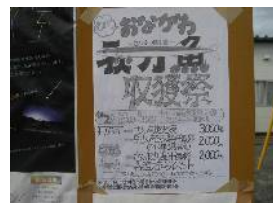
今回の主目的がミン大作戦。副目的は東北被災地応援団の新企画「桜プロジェクト」の下準備。  
13:30に総合体育館内の談話コーナーにて、女川町役場 農林水産課の中嶋さんと待ち合わせ。  
この企画は、女川町に桜の苗木を植えて、復興とともに町民が桜を楽しめる環境を作りたいという、同行した小澤の提案を実現すべくアポをとりました。生涯学習課の柴田課長さんも同席され、今回の企画の趣旨説明、状況の確認を行いました。  
基本的には賛同いただき、是非！とお願いされました。  
1番大きなハードルは、現在復興計画を議会で詰めてる段階で、運動場内のどの場所が取り壊され、どの場所が残るのが決定してない点。  
年内には結論がでるでしょうとの話をいただき、現状できることとして桜の苗木を植える場所、土、日当たり、周りの植物などを確認しました。  
何年か後に、満開の桜が咲き誇り、女川町民が桜を楽しんでる姿を2人で想像しながら行いました。  
次回11月末に女川町へ再訪した際、議会での決定事項の進捗を確認に伺う予定です。



この斜面はどうか



土も採取しました



明日の秋刀魚祭りのチラシ

#### ◆ 石浜地区在宅避難者

震災直後に避難所に断られた方々が、町の支援もずっとないまま生活しています。こちらは地区長の方が、早々に避難されたため、菊地さんがこの辺りの世帯をまとめています。リクエストの品物と洗濯用洗剤を届けてきました。



左側が菊地さん



白幡さんにお届け



石浜地区の風景

#### ◆ うめまる新聞店さん

総合体育館より女川街道（国道398号線）を石巻方向へ進み、女川街道沿い阿部とうふ屋酒店の手前左手にあります。建物の1階はイーガーハウスがあり、その2階がうめまる新聞店さんの仮店舗兼ご自宅。今回も立ち寄り、女川町民のためのミニコミ誌「うみねこタイムズ10号」をいただきました。こちらの阿部夫妻は、私たちがどこの誰かもわからない頃より親切に情報提供下さり、女川町入りする際に毎回助かってます。

#### ◆ 女川第1小学校仮設住宅

女川町内で1番最初に出来た仮設住宅。第1小学校のグラウンドに建てられ、5月連休明けには入居されてました。現在57戸 188名が生活。区長の岡夫妻を中心にコミュニティが形成されており、集会場でのミシン大作戦も1番盛んです。すでに札幌のイベントにて販売履歴もあり、現在は仙台のイベント販売用に追い込み製作中でした。製作した物を見ましたが、かなり上手に作られてて、売れるのも納得がいきました。こちらにも大量に端布や洋裁道具類をお届け。またリクエストありました洗濯用液体洗剤、赤ちゃん用オムツ、高齢者用オムツのほか、赤ちゃんが多いので離乳食もお届け。こちらでも、次回訪問時に洗濯用の柔軟剤をリクエストされました。今後ますます寒くなるにつれて、柔軟剤が必要な物を着るようになることを認識。



第1小学校仮設集会場内



こちらにも製作しました



可愛い小物類



シュシュもあります

#### ◆ 針浜地区仮設住宅

9月頭に初めて訪れた仮設住宅。万石浦沿いにあり眺望は最高。女川街道沿いの元浦宿駅から線路を渡った先にあります。40戸 98名を区長の斉藤さんがまとめており、住民同士のコミュニティもしっかり形成されてます。ミシン、端布、洋裁道具類をお届けしました。こちらにも小さなお子さんが多かった印象が前回あったので、離乳食と洗濯用洗剤もお届け。こちらの仮設住宅のお母さん方が製作された洋裁小物を、私たちが東京で催す10/23(日)チャリティーイベントへ出品くださることに。女川町マザーズの皆さん、ご協力ありがとうございます！



針浜仮設集会場内



洋裁小物も多種あります



針浜地区への道路は満潮時冠水します

2011年10月2日(日)

#### ◆ 第14回おながわ秋刀魚収穫祭

今年は震災で実施が危ぶまれるなか規模を縮小して、女川町総合運動場の第2多目的運動場にて開催。

主役は「サンマ」と「女川町民」です。

女川漁港に水揚げされた7,000匹の秋刀魚が無料で振舞われ、サンマ炭火焼、サンマのつみれ汁、生サンマ3匹セットとフルコースでいただきました。

とても脂がのって美味しく完食しました。

ステージでは、潮騒太鼓を始め、ご当地キャラであるリアスの戦士イーガーショー、地元伝統の踊りなどを小学生達が披露。

規模を縮小して町民向けの開催となったわりに、女川町内で始めてみる人出の多さに驚きと、町民達の町への想いを感じました。



秋刀魚祭会場



無料の焼き秋刀魚に並びます



いただいた焼き秋刀魚

#### ◆ 11月支援活動へ向けて視察

次回の活動へ向けて、初めて女川湾から五部浦湾の方向へ海沿いを南下し車を走らせました。

女川港から女川原発へと向かう海岸線の道です。

アップダウンときついカーブが連続する道は、ほとんど車を見かけることもなく、途中地震の影響による地割れ、台風15号による土砂崩れの痕跡がいたるところにありました。

小乗浜～高白浜～横浦～大石原浜～野々浜まで40分ほどで到着しました。野々浜の先は5分も行くと女川原発の敷地になります。

この辺りは2戸～24戸と戸数の少ない仮設住宅が点在していますが、物資・食材支援にはどこの団体も入りません。

また敷地面積が少ない高台の場所に建てられてる為、仮設毎に集会場もありません。

高台の開けた場所から見る、女川湾や五部浦湾はとても綺麗で、遠く左手には出島(イズシマ)、右手には江島や平島などが一望できます。

次回の活動時、東北の寒い冬が来る前に、誰もボランティア団体が入らないこの地域にお邪魔したく思いました。



台風15号による土砂崩れ



野々浜地区風景



五部浦湾を見下ろす



右奥に見えるのが江島

#### 「想いよ蘇れ！ミシン大作戦！」にご協力いただきました方々へ

今回のミシン大作戦にミシン、端布、裁縫道具及び小物類をご支援いただきました皆様、改めてお礼申し上げます。

ご支援いただきました物資は、女川町内の仮設住宅4箇所へ全て届けてきました。おかげさまで、どの仮設住宅の方々も

大変喜んで下さり、ご支援いただきました方々に直接お礼はできませんが、宜しくお礼をお伝えくださいとのことでした。

なお弊会で催します10/23(日)のチャリティーコンサート“がんばっぺ東北！”にて、皆様よりご支援いただきました道具、材料で製作しました洋裁小物を出品します。

この震災以降、全国より届いた支援物資に対し、感謝の気持ちを何か恩返しをするきっかけがないかと模索されてたそうです。

今回の出品もお礼の気持ちとのお事で預かりします。会場にて無料配布はしますが、気持ち程度でも専用の募金箱へご支援いただけますとありがたく思います。

11月支援活動の際に、女川町マザーズへの募金はREALeYE 高橋さんを通じてお届けします。

ご支援ご理解のほど宜しくお願いいたします。

以上、簡単ではありますが活動レポートとさせていただきます。

草の根的な活動ではありますが、少しでも早く東北地方が復興出来るよう微力ながら続けていこうと考えております。

今回の活動に物資ご提供いただいた皆様、支援金を寄付いただいた皆様、ご協力いただいた皆様に感謝いたします。

それとともに引き続きご支援ご協力の程宜しくお願い申し上げます。





(6) 行政支援

港区防災課 様 「災害派遣等従事車両証明書」の発行

(7) 現地受け入れ先

宮城県女川町災害復興支援センター（旧：災害ボランティアセンター） 様

(8) 現地協力団体

REALeYE（高橋 圭介 様、高橋 一枝 様）

皆様からのあたたかいご支援・ご協力のうで成り立っております。

本当にありがとうございました。

継続して被災地への支援活動をしていきますので、今後ともどうぞ宜しくお願いいたします。

平成23年10月10日  
東北被災地応援団 白金支部

---

※このレポート内にあります画像の流用及び転用は、一切禁止します。

Copyright (C) 2011 Tohokuhisaichi-Ouendan All Rights Reserved.